

# 種 苗 生 産 放 流 事 業

中村幹雄・山本孝二

県内における内水面漁業の振興，資源維持のため，コイの種苗生産，放流を行った。  
また漁業協同組合の依頼によるワカサギ，カワチブナのふ化，放流も行った。

## I コイの種苗生産概要

### 1 産卵，ふ化

採卵月日	5月20日	5月26日，	6月11日。
産卵使用親魚類	♀♂14尾，	28尾。	
産卵量	約230万粒。		
ふ化尾数	約180万粒。		
ふ化率	約78%。		

### 2 餌料生産の培養

餌料生物	主として淡水産ツボウムシ，タマミジンコ類。
施肥原料	石灰。ケイフン。
施肥量	石灰(0.2Kg/m <sup>2</sup> )。ケイフン(0.5Kg/m <sup>2</sup> )。

### 3 青仔，新仔の飼育状況

放養月日	5月26日，	5月31日，	6月17日。
放養量	60万尾。		
取場量	29万尾。		
飼養池	280m <sup>2</sup> ×6面。		

### 4 給餌量

人工配合飼料	マッシュ	505 Kg	)計 2,065 Kg
	ペレット	1,560 Kg	

### 5 配布実績

毛仔	110,000尾。
青仔	112,600尾。
新仔	51,300尾。

## 6 問題点

- 1) 本年度も県下の河川放流用種苗、並びに養殖農家の必要量の鯉種苗を計画通り生産することができた。
- 2) 県下で主要な養魚場で生後1カ月までに仔魚が原因不明の浮腫病で全滅した。そのために急拠、当分場より青仔4万尾を配布した。
- 3) 本年度飼育中に発生した疾病は春先に外部寄生虫の繊毛虫類の *Trichodina* sp. と吸虫類の *Dactylogylus* sp. が発生し、ホルマリン30ppm長時間で治療した。  
7月下旬から8月上旬にエラグサレ病(粘液細菌 *Chondrococcus columnaris*) が発生し、ダイメント散を経口投与をした。
- 4) 生物餌料培養中、カイミジンコが発生し、ワムシやタマミジンコの繁殖する妨げとなった。カイミジンコは仔魚の餌料にはならない。
- 5) 梅雨期に地底にアオミドロ、アミミドロの発生がみられた。除草剤を使用せず時おり、網で取りのぞいた。
- 6) 毎年、明2才に見られる体表の黒点は *Metagonimus Takahasi* のメタセルカリアの様に思われる。
- 7) 選別により飼育魚の数を正確に把握し、魚の大きさをそろえることにより、給餌管理を合理的に行い、また共喰いを防ぐという考え方から行なわれているが、本年度は担当者の考えで選別作業を行なわなかった。これは第一に省力化のためである。そして、鯉の場合、共喰いは大きさの差があってもほとんどない、又選別作業による減耗はかなり大きい、などの考え方より選別作業は行なわなかったが、これは誤ってなかった様に思われる。

## II ワカサギ・カワチブナのふ化放流

宍道湖漁業協同組合の依頼によりワカサギ、カワチブナのふ化放流を行った。

### ワカサギふ化放流概要

種卵移入先	諏訪湖
移入量	8 000 万粒 ( 2,400 箱, 3,300 粒/1 枠 )
移入日	3 月 17 日
ふ化日	3 月 26 ~ 28 日
ふ化率	約 60 %
ふ化池	2 m × 3 m = 6 m <sup>2</sup> 6 面
ふ化用水	河川水と地下水
宍道湖放流	3 月 29 日, 31 日

## カワチブナふ化放流概要

種卵移入先	大阪府八尾市
移入量	約 90 万粒
移入日	5 月 19 日
ふ化日	5 月 23 ~ 25 日
ふ化率	約 60 %
ふ化池	2 × 3 m 6 m <sup>2</sup> 4 面
ふ化用水	河川水
宍道湖放流	5 月 26 日, 8 月 1 日